

「天城学習」～問いの連続、そして、自分なりの解決策・自分なりの行動へ～

天城学習のねらい

「地元天城のよさを知るとともに、天城の課題を取り上げ、今後ずっと天城が誇れるふるさととして持続していくためにはどうしていったらよいかを考え、行動する」学習を通して、

- 自然や社会の「多様性」や「有限性」等について理解し、持続可能となるためになすべきことを意思決定し、「責任」をもって行動するようになる。(ESDの理念)
- 地域を愛し、誇りに思う心情を涵養することで、自尊感情を高める。
- 考えや意見を伝え合い、高め合うよさを実感することで、「他者と協力する態度」や「コミュニケーションを行う力」を育む。

起 ○人としてそこに生きるには・・・(原点) 人と環境との共生

1年生

『福祉体験学習』



3年間の天城学習のスタートとして、「福祉体験学習」を行った。持続可能な社会の原点は、「共生」である。お年寄りや障害を持たれた方とのふれ合いを通して、中学校で、家庭で、地域社会で、よりよく共に生活していこうとする意欲や態度を育むことをねらいとしている。具体的には近隣の6つの福祉施設に分かれて訪問した。施設の方々と

将棋を指したり刺繍を編んだりしながら楽しく会話をしたり、或いは訪問グループで協力して漫才、「アンパンマン」の紙芝居、「桃太郎」「かぐや姫」の人形劇、「妖怪ウォッチ」の踊り、「赤とんぼ」「ふるさと」「荒城の月」の歌などを披露したりして、とても喜んでもらうことができた。また、この取り組みを通して、クラスの仲間との絆を深めることができた。



『自然体験学習Ⅰ』



伊豆半島ジオパーク推進協議会や天城自然ガイドクラブの皆様のご協力を得て、「自然体験学習」を行った。船原スコリア丘などの火山地形を観察し、天城の成り立ちを学習したり、八丁池

登山をして天城の自然の豊かさにどっぷりと浸かったりしてきた。

承 ○地域の良さ、自然のよさは永遠だろうか・・・過疎化（廃屋放置・・・）、高齢化、自然環境の変化（食害、森林放置・・・）、課題があるぞ・・・

2年生

『自然体験学習Ⅱ』

八丁池登山や太郎杉、滑沢溪谷散策などの自然体験学習を行った。昨年度の秋にも皮子平への自然体験を行っているが、今回は、天城の自然のすばらしさを実感しただけでなく、シカの食害による森林被害などを目の当たりにし、大きな課題があることにも気付かされた。今後、地域の人たちはこのような課題にどう向き合っているのか、天城には他にどんな魅力や課題があるのかなどについて追究していくことになる。



『職場体験学習』

旅館・ホテル業、農業・林業、製造業、販売業、福祉施設等の18の事業所にお世話になりながら、「天城に根付いた仕事をしていくためにはどのような工夫をしているのか」を学習してきた。天城地区への観光客の減少が危惧されているが、観光産業の中核である旅館では、お客様にリピーターになっていただくために、都会では味わえない「空間」を演出していること、「掃除」を極め細やかに行っていること、常に「おもてなし」の心と「笑顔」で対応していることなど、努力していることを学んだ。また、林業、椎茸農家、わさび農家などでは、シカやイノシシの食害への対策で非常に費用が膨らんでいることや、後継者不足で困っていることなど、具体的に知ることができた。数日の体験ではあったが、社会人としての資質や能力について肌で感じ、今の自分の姿を振り返るよい機会にもなった。



『ツゲ峠鹿柵植生調査』

生徒会役員及び教員

黄楊峠のブナやササの減少・枯渇が鹿の食害によるものなのか、また、そうだとした場合には、

鹿柵を設置することで植生は復元していくのか等を調べるために、平成2

3年度3年生が鹿柵をたいへん苦労しながら設置した。その先輩の意思を受け継いでいくため、伊豆森林管理所や天城自然ガイドクラブの方々のご協力を得て、鹿柵内の植生調査を8月

24日に行った。毎年行っているが、年々、シカ柵内の植物の丈が伸び、多様化してきているのが分かってきている。この調査結果を天城学習発表会で報告することで、天城中生全員が共有していくようにもした。



転 ○ずっと持続している古都（奈良・京都）のよさ・すばらしさを体感し、あらためて天城を想うとき、ふるさと天城が持続していくためには何が利点か、何が必要か、何ができるか・・・

3年生

『修学旅行』

「学び、感じて、刻み込め！古都の魅力と1200年のパワー」というスローガンのもと、古都として、観光都市としてずっと持続している奈良・京都の魅力は何なのかを探ってきた。そのような理由から、2日目の宿泊場所も世界遺産である仁和寺の宿坊にした。

班別研修では、海外の人から古都京都がどう映っているのか、魅力は何か等を聞くために、外国人観光客へのインタビューを行った。班ごとに事前に準備した英語での質問をして調査するとともに、一緒に写真を撮るなど、国際交流を積極的に行った。



さて、このように古都の魅力を実感してきた3年

生があらためて天城を想うとき、ふるさと天城の魅力は何か、魅力をより発揮するために何が必要か、そこに課題があるとすれば、解決のために私は何をしたらよいか…、各自問い直し、テーマに沿って再び天城での調査活動を行った。

結 ○ふるさと天城が持続していくため、今、実際に何が進められているか、進めるためには何が障害になっているのか、何も行われていないのか・・・調べ、その上で自分がやりたいこと、自分にできること（行動化、市や観光協会・事業所への提言・・・）は何か・・・

3年生

『地域学習』

天城学習のテーマの「自分なりの解決策を見つけ、行動する」ために、最後のインタビュー・調査活動を「地域学習」と称して行った。個人またはグループで、次のような課題に対して地域で探り、整理してまとめていった。自然環境系では「ジオで地域の活性化を図る」、「鹿の活用」、「天城の水」等、農業系では「地域の食材を活かした新レシピ」、「椎茸コロケ」等、観光業系では「サイクリングで活性化」、「天城連峰太鼓で活性化」、「景観美化～ゴミ拾いの実践～」他、様々であった。



『天城学習発表会』

12月12日（土）に、天城会館にて「天城学習発表会」を行った。午前・午後と各学年の全員がプレゼンを行い、これまでの天城学習の成果を発表した。市長様、市議会議員様、体験活動でお世話になった事業所等の方々をはじめ、地域の方、7割以上の保護者など、多くの皆様に聴いていただいた。

各学年の発表内容は、次のとおりであった。

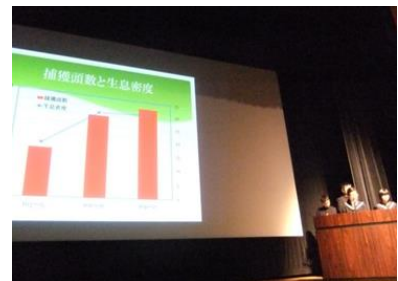
1年生



福祉体験させていただいた施設ごとに発表があり、施設の方に楽しんでもらった紙芝居や劇、踊りなども披露した。「共生していくためには、相手を理解し、相手の立場になって考え行動することが大切」という学びがあり、身近な社会で気持ちよく暮らすためにはどうしたらよいのか、自分自身を見直すきっかけとしていた。さらに自然体験では、船原スコリア丘から天城の成り立ちに思いを馳せたり、八丁池登山をとおして「身近なところにこんなにも豊かな自然がある」のを誇りに感じたりしたようだった。この豊かな自然をどのように守っていったらよいのか、2年生で追究していきたいと結んでいた。

2年生

自然体験では、「ジオパーク」「天城山の自然～課題編～」「動物の害（鹿）」というテーマごとに発表があった。鹿の食害については、捕獲頭数は増加しているにもかかわらず生息密度が増えている現状や、その対策として、イズシカを特産物にしてより流通量を増やしていくことなどを説明した。職場体験からは、「自然を利用した産業」「製造業・小売業」「観光業」という産業種別に発表があった。小売業や観光業では、顧客数の減少に対して、サービスの質の向上や新商品の開発で対応している状況についての説明があった。また、天城には多くの「文学者」が愛した温泉があること、「天城のPR」活動を自分たちで行っている実践についても発表があった。3年生になって、課題に対して自分たちに何ができるのか、資源をどう生かしていったらよいのか、さらに追究していきたいと結んでいた。

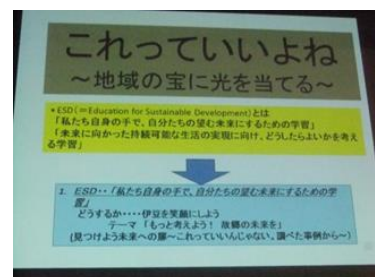


3年生

天城にある、ひと・もの・ことの資源をさらに掘り下げ、その活用について提言したり、熱海や修善寺地区など他地域の活性化について学んだことを天城に適用してみたり、観光客に直接インタビューして改善点などを探してみたり・・・、個々のテーマに沿って追究し、天城がいまよりも活性化していくための多岐にわたる提言や実践が報告された。

テーマとして次のようなものがあった。

「イズシカ・アマギシヤモ等をつかった創作料理や料理コンテストの開催」「天城の水やシイタケコロツケのPR」「わさびの観光体験農園」「耕作放棄地から天城の農業の活性化へ」「天城連峰太鼓のPR」「サイクリングを活用した地域活性化」「観光地天城のゴミ対策・環境整備」「交通の利便性を高め観光客を増やす」「外国人観光客を増やす方法」「修善寺の観光客増におけるNPOの活躍」「自然で子どもが遊ぶ企画作り」「旧湯ヶ島小等の有効利用」「天城のキャラクター作り」「天城カルタの紹介と伊豆百人一首の創作」・・・、一つ一つがとても素晴らしい内容であった。



発表会及び天城学習の総括

天城学習発表会には、ESDの第一人者である立教大学・阿部治教授にお越しいただき、生徒の発表を一日聴いて頂いた。発表会及び天城学習全体について指導講評をしていただいた。

「全国的にも天城学習はたいへん優れた活動です。自分の足で天城の資源を見つけてきています。このままで大丈夫かという課題も見つけてきています。地域創生のためのアイデアを考えています。これは、まさに文部科学省でいうところのアクティブ・ラーニングです。また、地域の人とコミュニケーションを交わすことで、信頼関係をつくっています。地域の力を高めています。

今後の課題として、資源の見える化から、資源のつなぐ化をして、人と人とが連携することで、実践化・事業化が図れるとさらに充実したものになります。」

という趣旨のお話ししていただき、生徒の学びを価値付けていただいた。

また、ご来場いただいた皆様からのアンケートには、「とてもしっかりした内容で驚きました。様々な視点から調べてあり、知らないことだらけで勉強させられました。子供たちなりに色々考えていて、とても立派に見えました。」

「天城会館を利用したの本格的な発表は、子供たちにとってとても貴重な学習だったと思います。」「どの生徒も堂々と発表する姿に感心しました。」などの感想を多くいただいた。

天城学習が、より地域の方々と連携して行動に結び付いていくように、ますます充実した学びとなるように、教職員一同も尚一層励んでいきたいと思う。

